

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	中高生一貫デイサービス トリトン			
○保護者評価実施期間	令和 6 年 10 月 1 日		～	令和 6 年 10 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13 名	(回答者数)	13 名
○従業者評価実施期間	令和 6 年 10 月 1 日		～	令和 6 年 10 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 名	(回答者数)	6 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 15 日			

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では中高生の児童を主な対象としているため、思春期に突入し、家庭内での家族との関わりが少なくなってしまう児童であっても、事業所内では他児や職員との関わりを持ち続けられること。	児童1人1人の思いに寄り添い、児童が言葉にした話しを大切に聞き、解決できるように努める。児童の年齢や性別などにより、抱える気持ち、考えは様々なため、些細なことであっても児童から伝えられたことを職員間で共有することができるよう努めている。	児童の思いや考えを保護者と共有することが、児童の将来に向け大切なことだと考えている。児童と保護者にとって心の片隅を支えていくことができる場所、居場所となれるような支援を行っていくこと。
2	当事業所では中高生の児童を主な対象としているため、思春期に突入し、家庭内での家族との関わりが少なくなってしまう児童であっても、事業所内では他児や職員との関わりを持ち続けられること。	児童全員が一体となり、季節に応じたイベント及び工作、おやつなどを提供することにより、季節の学習、しつらえなどの日本文化を感じることができる。視覚優位の児童に向けたパネル学習を行うなど、生きていく力を養う「学習」ができるよう努めている。	事業所主催のイベントを開催した際には、保護者やきょうだい児の皆様も楽しく参加していただき、事業所における児童の姿を見ていただく機会を提供できるような取組みを行っていくこと。
3	等事業所では中高生を主な対象としているため通常の防災、感染症などに対する研修はもちろんのことながら、性に関する教育を充実させることに重きを置き体と心の変化に寄り添い家庭では話づらい「性教育」についての児童が自分自身を大切にできる学びを提供していること。	職員研修では性教育及び安全研修(防災・感染症・人権擁護など)の研修を中心に、安心安全な環境を作ることができるよう励んでいる。職員研修での内容は、必要に応じて保護者への家族支援にも繋ぐことができるよう努めていきたい。	職員研修はできる限り全ての職員が揃う日時で行うようにしているが、一部のパート・アルバイトの職員には周知することができていないことがあるため、内容周知の方法を考えていけるよう努めていきたい。
	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「父母会」のように複数の保護者が一堂に会す機会というものがないこと。	保護者からの開催の希望がないことが一番の要因であるが、保護者から控えてほしい、他の保護者に知られたくないという意見もあり、「父母会」は設けていない。	保護者に再度、聞き取りを行い「父母会」の開催を希望する意見が複数ある様であれば、開催を検討する。なお、開催の希望が一部の保護者に限られる場合には、その保護者間で意見交換を行うことができる場所を提供できるよう検討すること。
2	外部機関による第三者評価及びスーパーバイズが行えていないこと。	当法人では、放課後等デイサービスに対応する司法書士・行政書士などへの業務委託は一切しておらず、適切な外部機関への依頼ができていないことから第三者評価及びスーパーバイズを行っていない。	今後、放課後等デイサービスに対応できる外部機関との定見を検討し、必要に応じて第三者評価及びスーパーバイズが行えるよう努めていきたい。
3	福祉サービスを提供する事業所との情報共有及び相互理解ができていない、またその結果を職員に周知できていないこと。	個人情報保護の観点及び保護者からの要請がないことなどから、他事業所との連携は一部の児童のみにとどまっている。なお、保護者からの要請があった児童に関しては就学及び就職に付随する福祉サービス提供事業所との連携を行っている。	当事業所開始・終了時において事業所から保護者に要請し、情報共有及び相互理解を求められる環境及び制度を整えることを検討すること。また、相談支援事業所との連携強化に努めたい。